

わたしたちの同窓生

(93周年)
会員数 25,484名
在校生数 1,232名
平成4年3月24日現在



同窓会報

椎の樹

1992.3.24 第6号

発行所 群馬県立高崎女子高等学校
同窓会
高崎市稲荷町20 電話(0273)62-2585
発行責任者 斎藤 民
印刷所 ほその印刷

同窓会総会 平成3年5月1日 於 椎樹館



同窓会員の皆様平成四年のよき年をお健やかに迎えるの事とお喜び申し上げます。
本年も会報委員の皆様のご協力により会報第六号をおとどけ出来す事を心から喜んでおります。
母校高女も九十三才という年令になりまして益々着実に学業に、部活に実力を発揮しており私共卒業生としてまことに嬉しく力強く思っております。
同窓会も九十周年という大きな区切りを記念して同窓生の皆様のお力により素晴らしい記念事業をいたしました。
早三年目を迎える事になりました。
今後は百周年記念を目ざしまして一層意義ある...



ごあいさつ
同窓会長 斎藤 民

ご葬儀にはたくさん同窓生が参列し神保様の大好きだった高女の校歌を歌ってお見送りし、お名残りを惜しんだのでした。心からご冥福をお祈り申し上げます。
同窓会も皆様ご承知の様に年間を通して行事や事業が行われております。五月一日総会、十月旅行、年を越して二月初旬新年会、三月初旬新入会員入会式、三月末会報発行の他臨時の事業が入りまして各係の皆様には準備その他で絶えず大へんなお骨折をされていた、いております。
何卒会員の皆様にも総会その他の事業に是非ご参加下さいませ、切にお願い申し上げます。
ましてご挨拶いたします。

同窓会会則 平成3年5月改正

- 第1条 本会は、群馬県立高崎女子高等学校同窓会と称して、事務局を同校内に置く。
第2条 本会の目的は、会員相互の旧情を温め、知徳を研ぎ、併せて母校に親しむことである。
第3条 本会は、群馬県立高崎女子高等学校及び群馬県立高崎女子高等学校の卒業生で組織する。
第4条 本会は、必要に応じて支部を設けることができる。
第5条 本会は、本校現職員及び旧職員を客員とする。
第6条 本会に次の役員を置く。
会長 本会会員中から選出する。
副会長 本会会員中から3名選出する。
顧問 群馬県立高崎女子高等学校長及び教頭事務局長並びに会員中から若干名推薦する。
理事 母校に在職の会員全員を以てこれに当てる。
常任幹事 本会会員中から推薦し、会長がこれを委嘱する。
幹事 期別・地区別 幹事は、同期会員及び当該地区会員の推薦により、会長がこれを委嘱する。
会計監査 会員中から2名、会長が委嘱する。
第7条 役員の仕事は次の通りである。
会長 会務の総理
副会長 会長の補佐、会長事故の時の代理。
顧問 重要会務につき会長の諮問に応じる。
理事 会長を補佐し、庶務、会計、編輯等の会務を処理する。
常任幹事 会長の招聘に応じ、議事を審議する。
幹事 会長の招聘に応じ、会務を掌握し、期別地区別の会員と本部との連絡に当たる。
会計監査 会計事務を監査する。
第8条 正副会長の任期は3年とし留任を妨げない。
常任幹事および会計監査の任期は3年とし、留任を妨げない。
第9条 役員改選にあたっては推薦委員会を組織する。
第10条 本会は、毎年5月1日の母校創立記念日を期し総会を開いて、旧誼を温め、重要会務について協議する。但し、時宜によって、変更し、又必要に応じ臨時総会を開く。
第11条 新会員は入会金として、入会時に金5,000円を納入する。
会員は維持費を年間1口・1,000円納めるものとする。
第12条 入会金および維持費は、会の運営に当てる。
本会は、諸種の事業を行うことができる。
第13条 この会則は、総会の決議を経なければ改正することができない。但し、役員会を以て総会に替えることができる。
第14条 本会の運営を円滑に進めるため、別に細則を定める。
細則 1) 常任幹事は、期別幹事の女学校34回期から高校20回期まで、4期毎に1名選出する。
なお、当番期及び次当番期より各1名選出することができる。
女学校 34~37回、38~41回、42~45回、46~48回
高校 1~4回、5~8回、9~12回、13~16回、17~20回

平成三年五月一日 椎樹館にて同窓会総会が開かれました。十一時の受付開始と共に三々五々会員の方々が会場に集まりになり、いつしか会場に当てられた大広間は、所狭しと大昼食会場に。
午後一時、角田副会長の開会の言葉にて総会開始。
斎藤会長の挨拶に続いて来賓の紹介が有りその後、岡村校長先生、児玉PTA会長に祝辞を載せ、審議へと入りました。
本年度は役員改選の大事な年にもあたり、推薦委員長の熊倉先生を中心に、穏やかな中にも緊張した空気のなかで、役員の確認がなされました。
又、長年の運営上に直面した問題をふまえて、幾つかの会則見直しも提示され、有意義な審議がなされました。
盛り沢山の内容に加え、事務局からの報告、同窓会行事の説明を終えた後、斎藤会長の指揮のもと、全員で校歌合唱。予定時間は少々オーバーしたものの、吉野副会長の閉会の言葉にて、本年度総会を無事終了致しました。
なお新役員は次の通りです
会長 斎藤 民(女26)
副会長 角田智恵子(女39)

- 副会長 吉村 晴子(高5)
常任幹事 橋本 節子(高35)
村田 満子(高45)
金井 幸子(高46)
石井 洋子(高47)
工藤 由洋子(高49)
海老原 洋子(高14)
原 勝代(高15)
川口 貞子(高16)
善如寺 康乃(高17)
東野 芳子(高41)
笹本 幸子(高44)
岡田 俊子(高4)
新井 秀子(高18)
渡辺 初江(高22)
佐久保 佳代子(高41)

同窓会入会式
平成四年三月二日
秋本祐理子(卒業生代表)
上州名物のからっ風にも、今では春の温もりが感じられ、冬の間眠っていた野の花も可憐な姿で春の訪れを嬉んでいる。新入会員である私達も熱き高女での思い出を胸にし、新たな同窓生としての実感を味わっています。高女に思いを寄せる先輩方と共に、その歴史の一端を担えることを光栄に思います。又、伝統



シャンソンの調べにのって
平成4年新年会 山田睦子(高15回)

前日の雪や、早朝の地震にもかかわらず、二百人近い皆様が集まり、恒例の新年会が、二月二日、高崎ビューホテルで開催されました。
初春にふさわしい華やかな雰囲気の中で、いつも若々しくチャイミングな同窓会長・斎藤先生の挨拶が始まり、博識でシャイな感じの校長先生の御祝辞の後、ダンディな教頭先生の乾杯の音頭で、祝宴へと移りました。
この宴に、大きな華を添えて下さったのが、アトラクションに出演された栗原道子さん(高15回)でした。
あふれる才能で活躍著しい原英彦氏のピアノの調べに誘われるように、深みのあるハスキーな歌声が流れると、会場は、水を打ったように静まり、栗原道子の世界へ引き込まれていきました。『パリの野郎』では拍手も楽しく、また『お、シャンゼリゼ』と一緒に歌ったりして、彼女の歌と、洒落たおしゃべりに、会場全体が魅了されたひとときでした。栗原道子さんは、皆様良く御存じの通り、シャンソン歌手としてだけでなく、いろ／＼な分野から注目されていて、非常に御多忙中の所を、母校の為に心よくお引き受け頂きました。これからは、さらに、色彩ゆたかに人生を歌いあげる女性として輝きを増していられる事でしょう。
しばらく歓談の後、事務局として、同窓会をしっかりと束ねて頂いている岡田先生より連絡等がありました。旅行委員長の海老原さんからも秋の旅行のお話があり、当番期は高15回から高16回へと、すっかりバトンタッチされました。最後は斎藤先生の指揮のもと、田島敏子さん(高15回)のピアノ伴奏で、校歌を合唱すると、気持はひとつ、いつしか皆、女学生となりました。
閉会后、外へ出ると、立春間近とはいえ、まだ肌寒い風が街を吹きぬけていました。しかし、心の中は何かとてもあたたかく感じられました。
も常にゼロからのスタートを覚悟しなければ生きてこないと、いう事実を忘れず、これからは言えども未熟でも右も左もわからない私達です。時には経験豊かな先輩方の御指導を仰ぎたくお願い申し上げます。
高校第44回卒業生同窓会
期別幹事
◎堀口亜樹子
◎堀越 深雪
◎六反田奈和
◎松田 恵子

講師 山岸松子先生 平成三年五月一日

蜻蛉日記を読んでの講演を聞いて

山口 泉 (高15回)

高女在学中に、難解な古典をわかりやすく、そして魅力的に教えて下さった私達の憧れの先生は、二十八年前と少しも変わらない、にこやかで美しい語り口で、古典にみる女性の姿を語って下さいました。

右大将道綱の母とだけ記され、名前もわからない蜻蛉日記の作者は、今から千年前、女が女文字で初めて日記を書いた人、後の紫式部などに大いに影響を与えた人です。十九歳で藤原兼家と結婚をし、一夫多妻の上流社会で、夫に

は九人の妻があり、第一夫人時姫の子が道長という、藤原氏全盛の頃からひと昔前の人という事ができます。百人一首で親しんでいる「嘆きつつひとりぬる夜の明くる間は、いかに久しきものとかは知る」という歌を夫兼家に贈った人でもあります。上巻には、十九歳から三十三歳までの事が記されています。当時は通い婚で、子どもには父の姓を名乗らせ、母方の家で養育しました。そして女の子ならば宮中に嫁がせ、その子が帝になる、というのが理想でしたから、多くの子が特にならば道綱ひとりしか恵まれない。そんな時代の中で、結婚生活のよい事はほんの少ししか書かず、裏切られてつらい事ばかりを書いています。

道綱を産み、一カ月経った頃、夫の落した恋文を見つけてしまします。その相手「町の小路の女」と相乗りして、自分の家の前を通り過ぎて行くのを彼女はどうな気持ちで見たのでしょうか。しかし、やがて彼の気持も冷め、女の産んだ男児もすぐ死んでしまふと、彼女は「私よりもっと嘆き悲しんでいると思うと自分胸がすつきりする」などどひどい事を書いていきます。別の見方をすれば、何と正直なんでしょうか。

第一夫人時姫と火花を散らす場面も、歌でやりあうあたり、この時代の人は何と優雅で教養の高かった事かと感心させられます。またこのようになやとりを朗らかにかわす兼家も魅力的な人だったようです。中巻では、子どもの多い時姫に負けたような気持になり、病気をすると、遺書をしたため、道綱のことを頼んだりします。「鳴滝ごもり」の二十日間は実に静かで美しい文章が記されています。下巻に入ると、昔、夫のすてた子を養女に迎え、一生懸命育てて、その事が救いになった様子が書かれています。

聴いているうちに千年昔の世界にひきこまれ、平安朝の人々の、現代の私達にも通ずる心に少し近づく事ができたような気が致しました。そして高女時代の教室風景が鮮明な像となって目に浮かび、胸の熱くなるのを覚えたひと時でした。



秋 黒部峡谷・美ヶ原高原 白樺湖への旅行

平成 3 年 10 月 13・14 日 川口貞子 (高16回)

出発時には小雨でしたが、松本城ではまぶしい程の青空になり、記念撮影、昼食をすませ待望の黒部ダムへ。残念ながら雨でしたがかえって思い深いものとなりました。二日目はさわやかな秋晴れ、美ヶ原高原ではアルプス、秩父連峰、浅間、妙義、荒船まで望むことができた。白樺湖で昼食をとり、午後は少し強行でしたが清里高原まで足をのびし、ソフトクリームをほおぼり、清里グッズを両手に買いこみ、バスの中で満足顔。高崎には何事もなく八時に到着。いろいろとお世話をいただいた当番幹事の方、お疲れ様でした。

講師紹介

角田智恵子 (女39回)

講師山岸松子先生は東京女子高等師範学校(現お茶の水女子大)をご卒業され、本校で昭二六年から二十七年間教鞭をとられ、国語を担当され特に古典の名講義は生徒達の脳裡を離れず、現在高崎市で「さわらびの会」前橋市で「かわせみの会」として先生お祈り申し上げます。



夫兼家の歌は、蜻蛉日記だけに登場します。なかなか訪れない彼を恨んで二三句に

松本城めぐり

教頭 奈良部清満先生

昭和九(一九三四年)年

昭和九年九月十七日、高女では身体検査が行われていた。十一月十日から本県で実施される陸軍特別大演習に対応する高女における準備の幕開けを示す行事である。

この大演習の様子は、当時の校友会誌『松のゆかり』二十七号「聖駕奉迎記念号」に詳しい。その編集後記は、「前略」顧みますれば昭和九年は誠に光栄の年であり、

の動きが国際世論から厳しく指弾されていた情勢をさしている。即ち、昭和九年二月、国際連盟はリットン報告書に基づき対日勧告案を四十二対一で採択し、これに対して日本が「連盟ト所信ヲ異ニスル」として連盟脱退を通告し、国際的孤立化の道を歩み始めていた。この非常時を突破するために、昭和十年の第七十六議會で政府が声明した『国体明徴』に象徴されるように、軍部を中心とした時の支配層は、天皇を中心に据えて国民の一致結束をはかろうとする方針を打出そうとしていた。

高女でも、大演習に先立って、校内の一隅に皇太神宮の社殿と御眞影奉安殿が建造され、それぞれ十月二十八日、十一月三日に、厳かな落成記念式典が挙行されている。

昭和九年の大演習は、十一月十日午後八時に佐野市(栃木県)で開始され、高崎・前橋・藤岡などを主戦場として、十三日まで展開された壮大な模擬戦であった(動員兵力約十五万人)。大本営は前橋の県庁知事室に置かれ、天皇は十八日まで本県に滞在された。十四日に観兵式を終ると、あとの三日間は県内各地を巡幸されている。

この間、十二日には高女教諭角田俊夫先生が県内研究者を代表して岩石鉱物の説明をする。

現在、当時を物語る資料として、奉送迎心得(冊子)、奉送迎行幸地市町村係員配置表(一枚)、奉送迎事務打合要項(一枚)、御道筋奉送迎係員分担区域表(四枚綴)、高崎市民奉送迎場入場人員割当表(一枚)、御道筋奉送迎位置図(六枚)、奉送迎位置図(十三枚綴)、天覧作品(前掲五点)、そして、三年生全員の作文集「御親閲拝受感激文集」が松樹館に保管されている。

強烈な印象を残していった昭和九年、高女に籍を置いていた同窓の方々(女34回〜38回の卒業生にあたる)にとつては、誠に歴史的な忘れ得ぬ体験でありましょうが、最早六十一年の星霜を刻んだ過去の頁である。しかし、残された資料群からは、今でも生々しい時代の息吹が伝わってくる。



昭和九年の資料

文芸欄

賽銭の音に大小朝寒し 獅子舞の恋のしぐさや秋日和 森 閑子 (女27回)

曼珠沙華毒あるものに魅かれつる 身にまとふもの赤が好き曼珠沙華 杉浦百合子 (女38回)

透きとほる日射しの中の秋さくら 白菊のその輝きにくもりなし 佐鳥 仁子 (女38回)

城濠は修復さなか櫻咲く 大榎風に鳴りつつ芽吹きをり 櫻井 春子 (女38回)

秋雨の遊覧馬車は馭者ひとり とどかねば通草の色にみとれけり 新井 恭子 (女44回)

とどかねば通草の色にみとれけり

故神保元会長の思い出を語る

平成三年七月四日、元同窓会長神保充子顧問が御逝去されました。心より御冥福をお祈りいたします。

会長……神保さんは、二十数年という長きに亘り、同窓会の基礎作りの為に御苦労いただき、非常に立派な業績を残されました。母校に対する強い愛情をいつもお持ちになり、「私、高女が大好きです。」と仰ってその姿勢を貫き通し、体で表わしてくれたことはなかなか出来ない事で、是非後輩の為に会報でその姿を知っていただきたいと願っております。

- 出席者名簿
- 戸塚 咲 (顧問)
 - 高尾まつ (〃)
 - 金井とし (〃)
 - 齊藤 民 (会長)
 - 角田智恵子 (副会長)
 - 吉村晴子 (〃)
 - 吉野烈子 (編集委員長)
 - 橋本節子 (元事務局)
 - 熊倉京子 (〃)
 - 吉原照子 (〃)
 - 笹本幸子 (事務局)
 - 岡田俊子 (〃)
 - 堺 徳子 (親族)
 - 村田喜代子 (〃)
 - 原 勝代 (編集委員)
 - 島方睦美 (〃)
 - 那須桂子 (〃)
 - 温井公子 (〃)

吉野 きよはは会報編集会議におでかけいただき、ありがとうございます。神保さんは、大正四年三月第十四回の卒業でいらつしやいます。昭和二十六年から四十七年迄会長、今年おなくなりになる迄顧問としておられました。元会長とご一緒に同窓会の為にご尽力された方々より、思い出に残る話をおきかせいただきたくよろしく申し上げます。

橋本 神保さんが副会長になられた年に私は高女にまいりました。二年後に顧問さん方に推せられ会長におなりになりましたが、フエルトの厚い草履をバタバタと引きずりながら廊下を歩いていらつしやる、専業主婦だからと遠慮がちな可愛らしい会長さんが一・二年経つうちにすっかり貫録が出て、仕事上でも常に同窓生をまとめ、親睦を計っていたらした、御自分は陰になりながら人の意見を吸み取り、



戸塚さんととても良いコンビでしたね。戸塚さんは同窓会の役員だったものだから色々伺っては、おりましたし、その当時は、

立派な顧問さんがお揃いでしてね、ある時私の所にお尋ね下さいまして、神保さんのお手伝いをと云われまして、私も子供が五人もおりまして忙しい中、それどころではなかったのですが、神保さんとは共通の趣味があったり、親しくさせて戴いていたものから、お手伝いしようという気持ちになったんだと思いま

無事帰宅できたかを心配して下さいました。優しさに有難度く涙がこぼれる思いでした。私は他校の同窓会の仕事も経験しましたが、高女同窓会の素晴らしい姿を改めて感じます。時、和やかで、華やかで、実行力があった常に母校と共にある同窓会は、元会長さんそのものだった様に思います。

いながら又校歌をつぶやいておりました。ほんの十日間の思い出でした。会葬の折には、沢山の皆様に校歌で送って戴き、母はなによりも喜んでいました。自分も柩の中に入れて歌っていたのではな

如何にするべきかと苦心してプログラムをたてておられ、会員のことを考えて一人で走ると云う事は決してなかったと思います。学校と音楽を共にして、だから余計学校がお好きだったのだでしょう。一言話をする度に心の暖かさが伝わってくるお母さんの様な会長さんでした。一時代を安全に暖かく守って下さった、自分の母親に次いで依り所と思っておりました。

同窓会の裏方の仕事をしました。元会長さんは、学校においでになりました時、又お帰りの時には必ずお優しい笑顔で皆に声をかけて下さいました。いつでしたか京浜同窓会にお供致しました折、翌朝早々にお電話をいただき、



同窓会の大変懐かしい、さすがやっぱり神保さんという思い一杯です。私がいろいろと御相談申し上げる時にも、「私達がお選びした会長さんです。この筋を通していらした、大所高所から物事を眺める事の

青春を新緑の香りにのせて開催された椎樹祭。同窓会もお仲間間に今回はOG工芸展で参加いたしました。椎樹館広間には女学校31回から高校40回卒業までの39名の工芸作品が、はなやかに飾りつけられました。

- ◆作品及び出展者
- 人形 (高39) 落合まつ子 (高43) 吉田ヒサノ (高44) 清水八重子
 - 刺繍 (高5) 清水 正子 (高18) 須永ふさこ (高25) 小堤ちえみ (高39) 保坂 慈子 (高40) 清水 祐子
 - 染 (高5) 吉村 晴子 (高6) 牧絵恵美子 (高11) 前田 雪子
 - 鎌倉彫 (高31) 清水 俊子 (高34) 堺 徳子 (高36) 岩崎 佳子 (高40) 赤尾 緑子 (高42) 下田 清江 (高47) 村山 豊子 (高3) 須郷 京子 (高5) 真下智恵子 (高5) 相良 範子 (高6) 田中 芳子 (高7) 久保山妙子 (高8) 金子 洋子 (高8) 小柴千鶴子 (高9) 秋沢ヨシ江 (高11) 岸 佳子 (高11) 阿部久美子 (高12) 渡辺 宣子
 - 里見 啓子 (高13) 関 礼子 (高18) みずむらやよい (高23) 安岡美佐子 (高12) 有賀 伸子 (高25) 増尾 康代 おしぼな (高13) 吉田美津子 漆芸 (高17) 松下 壬映 陶器 (高45) 山口喜代の パッチワーク (高16) 岸 雅子

美と手づくりの喜びを生活の中に生かす工芸の面目を發揮した心こもった作品の展示でした。高女生をはじめ、沢山の来館者となごやかな交流のひとときを楽しみました。



よいか、「女学校時代は本當によかった」と母校に寄せる気持ちがお話の随所に表われて、こういう先輩のいられる事に大変誇りを持って帰ったのを思い出します。そしてきょう諸先輩よりいろいろなお話をきかせていただき、その感を深めております。

秋の湯西川温泉・平家落人の里を訪ねて

平成4年度旅行のお誘い

10/18(日) 高崎一足利学校一益子一湯西川 (泊)

10/19(月) 湯西川一霧降高原一足尾銅山一高崎

◎申込方法
9月1日(火) 10時~15時まで
母校椎樹館事務室
☎(0273) 62-2585
多数のご参加をお待ちしております。



第40回京浜地区同窓会

七月七日、高女京浜地区同窓会が「上野精養軒」で開かれました。約百四十人の方々に出席して頂き、小池美登子支部長の挨拶が始まり、斎藤民先生、岡村昇治校長先生の御挨拶の後、熊倉京子先生に乾杯の音頭をして頂きました。

おいでの方々、どうもありがとうございました。

加藤曉美(高16回)



今回は高々出身の音楽家、荒木泰俊氏の素敵な歌声を披露しました。「あつ」という間に時間が過ぎ去り、「校歌」を合唱して、最後に「今日の日はさよなら」を歌っている途中、感激と胸がいっぱいで涙を流す方々も、おりました。諸先生方、高崎や遠方より

受章 平成3年11月3日、松田寿美様(女32回)が昭和24年から現在まで保護者として活躍された功績で、勲五等瑞宝章を受章されました。お祝い申し上げます。



事務局だより

5/1(金)	総会および講演 母校椎樹館
10/18(日) ~19(月)	親睦研修旅行 湯西川益子方面
2/7(日)	新年会——高崎 ターミナルホテル
3/2(月)	新会員入会式 母校椎樹館
3/下旬	会報7号発行

※会議 (1) 別期幹事役員会 6月、9月 (2) 常任幹事会 随時
総会、旅行、新年会へ皆様お誘い合わせて御参加ください。なお旅行についての申し込みは9月1日(水)10時~15時まで母校椎樹館事務室で受付けております。

同窓会 総会開催のお知らせ

新緑の候、同窓生の皆さまには益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

下記により、総会を開催いたしますので、お誘い合わせのうえ多数ご参集くださいますようご案内申し上げます。

日時 平成4年5月1日(金) 12時より
場所 母校 椎樹館
日程 12:00~13:00 昼食
13:00~13:40 総会
14:00~15:30 講演
講師 新潟大学工学部建築学科 鈴木哲教授(元高女教諭) 「年輪の話・雪の話 (高女のこと・雪国のこと)」
会費 1,000円
※別期幹事は必ず2名は出席ください。

同窓会維持費中間報告

(H4.3.18現在)

【収入の部】	
維持費納入金	3,383,000円
(手数料差引)	
預金利子	54,000円
計	3,437,000円
【支出の部】	
会議費	28,805円
計	3,408,195円
今後支出の予定(会報椎の樹第6号印刷代及びその他等)	1,023,600円
【差引残高】	2,384,595円

◎同封の振込用紙に必ず卒業回期の記入をお忘れなく。
年間1口1,000円
納金お願い致します。

◎母校の近況 (平成4年4月1日現在)

○教職員の異動
転任……教頭・奈良部清満(前高教頭)、渡辺一政(沼高教頭)、羽鳥進一(県教委指導主事)、深澤節子(伊女)、小林賢二(高東)、太田明充(中央)、田村信(高市女)、西岡良幸(前南)、木村好男(安中)、真下睦(洪工)。
着任……教頭・戸塚雅宏(藤高)、高野英之(洪女)、清水博(桐南)、中野雄一(前西)、木村道男(前南)、大栗勇一(県文化財)、箕輪則子(藤女)、岡崎太郎(高商)、瀬山勇三(中央)、増田知己(順心女子)、丸山晴夫(前二)、茂木悦子(万場)。以上の諸先生
○平成4年度 新入生 405名
○新卒業生の進路状況(のべ数)
国立4年制 89、公立4年生 51、計140名
国公立短大 25、私立4年生 291、
私立短大 121、各種専修 32、就職 10
◎同窓会新入会員 414名(平成4年3月2日入会)

全日本レディース大会準優勝

(軟式テニス) 木戸直子(女37回)

平成三年八月二十八・九日東京有明の森テニス公園で行われまして全日本レディース軟式テニス大会にて群馬県選手団がみごと準優勝の活躍をなさいました。代表選手の中には、原勝代(高15)、戸川節子(高18)、杉和恵(高19)の各選手が活躍し、日頃クラブを共にしております私ども、最終日にはお仲間の方々と応援に出掛けました。どの県の選手もフットワークが速く、試合前の雰囲気は、私達に迫る緊張感を感じて、この中で試合をするという事は並大抵の精神力では出来ません。前日の鹿島、徳島の予選リーグを勝ち抜き、広島との決勝トーナメントが始まったのが午前九時、群馬の一、二番手が実力を出し切れず、二番手が負けた。三番手、四番手の原チームの頑張り、又圧勝した勢いで、四番手の杉チーム、五番手の勝ちで、みごと第一関門突破。続く準々決勝の京都戦、準決勝では優勝候補筆頭の東京をも破って決勝戦へと進み、大分県との対戦となりました。応援も益々エスカレートし、どちらが優勝するか全く予想出来ない。実力伯仲の見ええある試合の末、惜しくも二、三と負けてしまいました。原チーム、杉チームは、予選リーグ決勝トーナメントを含め六試合全勝したものの、団体戦の為に惜しくも群馬としては優勝を逃してしまいました。しかし八月二・三日仙台市で行われた個人戦での全日本優勝達成と共にこの大会でも全力を出し尽していた原さん、杉さん、そして、この大会でチームを引っ張って行く姿、また、その試合ぶり、集中力、ファイト、粘り強さ、考えた試合運び等々、皆々感動して帰って参りました。日頃短時間の練習でも真剣にプレーされ、それがこころざしう所です。十分発揮されるのではないかと応援に行つて本当に良い勉強をさせていただきました。

故豊田一男先生詩碑建設へご支援のお願い

豊田一男先生が逝って三年になります。先生は、昭和30年より昭和45年定年退職まで十四年間高女の美術教育に尽力されましたが、その間、県美術会長として指導的役割を果たす一方、文学面では、詩作品を発表しつつ県ペンクラブ副会長、県詩人クラブ顧問、「文芸たかき」詩部門選考委員として県や市の文学界発展に尽されました。これらの功績で文部省の地域文化功労者賞、県文化功労賞、市文化賞など受賞されています。群馬が生んだこの優れた画家であり詩人である故人の業績を、詩碑という形で顕彰しようとして、斎藤民同窓会長をはじめ、

故豊田一男先生詩碑建設へご支援のお願い
事務局長 平方秀夫
詩碑建設実行委員 井田秋雄(高女美術教諭)
○詩碑建設計画 '92年中頃、市シンボルロード脇緑地帯
○規模予算 三百万円
○基金 一口三万円、一口以上
○募金送付方法、高崎市島野町68-112 平方秀夫宛
☎(0273)521974 四五
または、
口座番号長野六四七三〇一 豊田一男詩碑建設委員会宛

め、松浦幸雄市長、山本水先生、原一雄先生などを顧問に詩碑建設委員会が発足しました。
同窓会のみなさまにも趣意ご理解のうえご支援、ご協力を心からお願ひ申し上げます。
※詩碑建設実行委員
事務局長 平方秀夫
詩碑建設実行委員 井田秋雄(高女美術教諭)
○詩碑建設計画 '92年中頃、市シンボルロード脇緑地帯
○規模予算 三百万円
○基金 一口三万円、一口以上
○募金送付方法、高崎市島野町68-112 平方秀夫宛
☎(0273)521974 四五
または、
口座番号長野六四七三〇一 豊田一男詩碑建設委員会宛

お知らせ

「どんぐり会」
ゴルフ同好会です
年一回、三・五・九・十一月の第三木曜日にコンペを行っています。先輩後輩和気あいあいと集い、一日を楽しくすごしています。入会希望の方は、左記へ葉書にてお申込

み下さい。
〒370高崎市片岡町一八八-一
村喜代子(女45回)
☎(0273)261632

○第六号編集委員
岸数子・海上栄子(高13)・海老原洋子・田村節子(高14)・原勝代・島方睦美・温井公子・那須桂子(高15)・川口貞子・大山昭子(高16)・善如寺尚子・下村千加子(高17)・武井治子・前田房子(高19)

お知らせ

「どんぐり会」
ゴルフ同好会です
年一回、三・五・九・十一月の第三木曜日にコンペを行っています。先輩後輩和気あいあいと集い、一日を楽しくすごしています。入会希望の方は、左記へ葉書にてお申込

み下さい。
〒370高崎市片岡町一八八-一
村喜代子(女45回)
☎(0273)261632

○第六号編集委員
岸数子・海上栄子(高13)・海老原洋子・田村節子(高14)・原勝代・島方睦美・温井公子・那須桂子(高15)・川口貞子・大山昭子(高16)・善如寺尚子・下村千加子(高17)・武井治子・前田房子(高19)

あとがき

神保元会長の御逝去は、第一回編集会議前日のことでした。創刊号発行の頃のお元気な姿を思い、ご冥福をお祈りしました。
第二回編集会議は、テニスで全国優勝された本年度当番幹事原さんへの拍手が始まりました。三回四回とにぎやかに会議を重ねて六号をお届けいたします。文芸欄へのご協力ありがとうございます。また次号への投稿お待ちしております。ニュースも、ご意見もお知らせください。これからも感想もお寄せ下さい。
編集委員長 吉野烈子
(高9回)